



木次っ子の四季

～互いに互いの成長を喜び合う学校～

校長:伊藤彰彦



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。今年は、新型コロナウイルスが早くおさまり、通常の生活が送れるようになることを願っています。

さて、今年は寅年です。壬寅年は、「新しいものが生まれる」「成長する」といった意味があると聞きました。どうか、今年、木次小学校にとっても皆様にとっても新たなよい出来事が生まれ、共に成長していく年であってほしいと願っています。

3学期の始業式

1月11日は、第3学期の始業日でした。

登校の様子を見ていますと、元気に挨拶をして登校する子ども達が多く、嬉しく思いました。14日までは、学校運営協議会（コミュニティースクール）の生徒指導部主催の第2回あいさつ運動週間でした。寒い中ですが、元気の挨拶ができました。

始業式は、今回も Zoom を使って校長室からリモートによって行いました。直接子どもたちの様子を見ることはできませんが、校歌や挨拶の声が聞こえてくると嬉しくなります。

私からは、「3学期は『感謝』と『絆』を大切にしてほしい。」と話をしました。「3学期はまとめの学期となるので、今までお世話になった地域の方、保護者、先生、友達や先輩といった、関わってもらったすべての人に『感謝』の気持ちをもって接してほしい。『感謝』の気持ちは、あいさつや掃除など行動で表してほしい。『絆』については、一人一人が友達を大切にしてお過ごし、より強い結びつきを持ってほしい。相手の目をみて、傾いて話を聞いたり、温かい言葉をかけ合って励まし合ったり、行動で友達を大切にする気持ちを表してほしい。」と話しました。

木次小学校に GIGA が来た！

国が進める GIGA スクール構想が、雲南市においても実質的にスタートしました。雲南市の全ての小中学生が、タブレット（パソコン）を市から貸与され、学習に活用していくというものです。

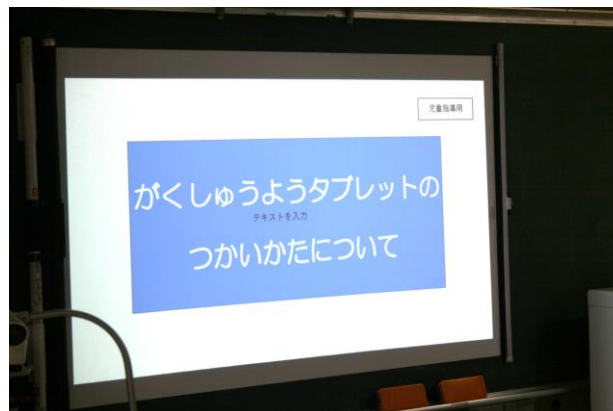
現在、私たちは世界とインターネットでつながり、どこにいてもだれとでも仕事をしたり情報を整理し活用して生活をしたりしています。コンピューターを活用しての学習や仕事は今後さらに進みます。AI（人工知能）の活用は進み、技術は日進月歩で発展しています。パソコンなどの ICT 機器は、今までマイナス面ばかりが強調されていました。しかし、今後はうまく付き合い、学習に有効なツールとして、世界とつながるツールとして学校で活用していく時代になったと、考えを改めなくてはなりません。

では、どんな点がプラスになるのかというと、学習においては次のようなことがあります。

- ① タブレットを使って、クラウド上での学習は、瞬時に全員の考えがわかり、子ども達は友達の考えを参考にして学習を進められる。つまり、一人で悩む時間が大きく減る。
- ② 実際に言葉を発しなくても、クラウド上で意見交換をすることで、今まで発言することに抵抗がみられた子どもが意見を表明しやすくなる。
- ③ 書くことが苦手な子どもは、タイピング技能さえ高めれば、苦手を克服できる。

その他、昆虫などを写真に撮って学習に活用したり、タイピングで多くの文字を文章化したり、たくさんの利点があります。とはいいまして、教職員が今まで培ってきた指導技術や教育観は変わるものではありません。むしろ、より強調され、本質が大切となると考えています。

今後、少しずつ活用の様子を学校だよりでお知らせしていきます。学校では、利用にあたっての指導を子ども達にしっかりと行い、子ども達がコンピューターを有効に使い、他者との協働を進め、情報をうまく活用してよりよい社会を築く一員になっていくよう、努力を重ねていきます。



雲南市教育委員会教育長 景山明より
開封の儀にあたってのメッセージが届きました。

大切に使うこと、それは、丁寧に扱うことと、学習道具としてしっかり活用し学習に活かすこと、というお話でした。

教室では、スライドを使って各学年に応じた指導をしました。指導内容を一本化するために、事前に指導内容を厳選しました。このことは、保護者の皆様にも「テクノロジー利用についての同意書」という紙面でお伝えしました。

特別支援教育連載「かけはし」



今年度、木次小学校には特別支援学級として7組、8組、9組、10組の4クラスがあります。紹介します。

学年は1年生から6年生までいます。「少ない人数の方が集中しやすい」「自分のペースに合った学習をしたい」など、一人一人の教育的ニーズに応じて7組、8組、9組、10組の特別支援学級で学習したり、交流学級で一緒に学習したりしています。一人一人の教育的ニーズに合わせてカリキュラムを組み、学習する場所と教科を決めて学習しています。

「なかよし運動会」や「卒業おめでとうの会」など他校の児童や地域の方との交流を行うとともに、体験的な学習も多く取り入れています。